VHF／UHF帯電波有効利用作業班
デジタル放送グループ

提　出　資　料

デジタル放送の統合化案 ～その1～

提案システム	最低帯域幅	使用周波数帯域（注1）			事業主体（提案者）	中間報告における類型化（注2）	更なる統合化案（注4）
		VHF-L	VHF-H	UHF			
デジタルラジオ	28MHz（注3:TVの7chを含む）	○	◎	△	既存音声放送（AM、FMラジオ、DRP等）事業者 新規参入（商社等）事業者	デジタルラジオ（L/H/U: 0/52/0）	（A）
ワンセグギャップフィラーおよび小規模エリア専用チャンネル	4.3MHz	×	×	◎	NHK、TBS	ワンセグギャップフィラー（L/H/U: 0/0/6）	
ISDB-Tsb モバイルサーバー型マルチメディアサービス	12MHz	△	○	◎	扶桑社、共同テレビジョン、ニッポン放送、フジテレビジョン	ISDB-Tsb移動体／携帯マルチメディア放送（L/H/U: 6/52/12）	
携帯電話向け放送型サービス	12MHz	△	◎	○	伊藤忠商事		
次世代無線映像伝送システム	6MHz	○	◎	◎	ホームサーバー企画		
「時」非依存型映像多重送信システム	6MHz	◎	◎	×	ソフトバンクモバイル		
大容量移動体向け放送サービス	12MHz	◎	×	×	NHK	移動体向け大容量マルチメディアサービス（L/H/U 18/6/0）	（B）
メディアフロー	12MHz	△	○	◎	メディアフロージャパン企画 モバイルメディア企画	メディアフロー（L/H/U: 18/18/18）	
DVB-H準拠方式マルチメディアラジオ放送	5MHz	×	◎	×	WIDEプロジェクト	DVB-H準拠方式マルチメディアラジオ放送（L/H/U: 0/16/0）	
合計	97.3MHz					（L/H/U: 42/144/36）	

注1： ◎： 最も望ましい周波数帯　○： 第2候補となる周波数帯　△： 利用可能な周波数帯　×：望ましくない周波数帯
注2： （ ）は、中間報告時に提案した周波数帯域ごとの要望帯域幅（MHz）　注3：DRPにおいてTVの7ch4MHz帯域を運用中

デジタル放送の統合化案 ～その2～

注4： 更なる統合化案検討のプロセス

①デジタル放送の二つのグループでは、現在RFシステムに着目した場合、大きく四つの技術方式が提案されている。

（1） ISDB－T　　：6MHzをベースとした地上デジタルテレビジョン放送に利用されている方式
（2） ISDB－Tsb　：ISDB－Tの1セグメント（6／14MHz）を基本単位とした地上デジタル音声放送に利用されている方式
（3） メディアフロー　：6MHzをベースとしたクアルコム社開発の方式
（4） DVB－H　　：6～8MHzをベースとした欧州デジタルテレビジョン放送をベースとした方式

②中間報告では、（2）について、利用方法に応じ、

（2－1） デジタルラジオ
（2－2） マルチメディア放送
（2－3） ワンセグギャップフィラー

に分割し、合計で6種類の項目を提案している。（マルチメディア5種類、デジタルラジオ1種類）

③今回の集約に当たっては、主にRFシステムを主眼とし、更なる集約を図り、

（A） 狭帯域に分割可能で、OFDMおよび誤り訂正を付加した方式
→ 上記（2－1）、（2－2）、（2－3）を集約

（B） 6MHzをベースとし、全帯域を利用したOFDMおよび誤り訂正を付加した方式
→ 上記（1）、（3）、（4）を集約

の二つに統合化することを提案する。